

The
Japan
Interior
Designers'
Association

JID

no. 70

1975. Apr. 1

昭和 50 年 4 月 1 日発行

目 次

主集

協会への期待.....	1
インテリア産業振興対策委員会情報.....	2
アメリカにおけるインテリアデザイナー資格試験.....	3
かるてっと.....	6
賛助会員紹介・編集後記.....	9

協会への期待

副理事長

渡辺 優

当協会も発足してから17年になるう
としていきます。会員数も名簿を作るの
が大仕事という世帯になってくると、
なかなか小回りがきかなくもなっ
てくるのは止むを得ないでしょうが、世
の中も質的転換の時期にあること
です。この辺りで協会の体質をあらため
て考えなおす必要があるように思われ
ます。

私はこれからの協会について五つの
ねがいをもっています。

1●知性のある集団であること

インテリアという言葉は急速に大衆
のものになりましたが、それだけに関
連する用語のどれかがあいまいに使
われ、あるいは混乱をしています。こ
のような問題もふくめて、インテリアの
分野の理論上のリーダーの役割が当協
会には課せられていると思われます。
しかし会員の個々としてはともかく、
協会としての論理的基盤はまだ稀薄と
いわざるを得ません。研修委員会ある
いは研究会等を通じてこれを明確にす

る必要があります。またその基盤があ
れば会員の知的レベルの向上につい
ても、指針が得られることになりましょ
う。

2●実行力のある集団であること

協会の活動は年を追って活潑になっ
てきていますが、まだ充分ではないと
いう声も少なくありません。これには
経済力、企画力、行動力、組織力など
が必要ですが、とくに会員全体の力が
結集されていないことに大きな問題点
があります。一部の会員がいくら頑張
っても限界がありますし、それは本来
の姿でもありません。全員が何らかの
かたちで協会の活動に参加するような
方向に是非もっていきたいものです。

3●説得力をもつ集団であること

理論と実行力をもったとしても、そ
の内容が内部的にも外部に対しても充
分説得力をもったものでなければ意味
がありません。とくに業界をはじめ社
会的により影響力をもつことがのぞま
れます。また海外との交流も多くなっ

てきましたが、その時々への処置に終ら
ず積極的な訴えかけも必要でしょう。
今までも会報委員会と渉外委員会は活
潑な活動を続けてきましたが、今後は
一層の活躍が期待されます。

4●洗練された集団であること

デザイナーの集まりであるというこ
とは、すぐれた感覚の持ち主の集団と
いうイメージは重要です。それは職業
的な信頼にも結びつくことです。もち
ろん個人的にはすぐれた感覚をもっ
ているに違いありませんが、協会とし
てのイメージにはまだ不十分な面が
ないとはいえないようです。野暮の追放も
一つの課題ではないでしょうか。

5●たのしい集団であること

会員相互の交流は協会の活動には欠
かせないことです。各地方の事業部単
位での親睦会が多くなったことはたい
へん結構なことですが、上手に遊ぶこ
とのできる一方で、様々な話し合いの
場もほしいものです。もっと意見のぶ
つけ合いのできる集まりでありたいと
も思います。

これらのことを進めて行くためには
今までより委員会活動を充実させる手
だてを考えなければならないでしょ
う。理事会の機能を明確にする一方で、
委員会がより自由に動き廻れる組織と
内容に変わる必要を感じています。

昭和48年3月に通商産業省に設けられた「インテリア産業振興対策委員会」は、48年度の約1年間にわたる研究調査の中間報告を「インテリア産業の現状」としてまとめ、49年9月に刊行し、一般に公開した。

その内容は、住宅とインテリアを系統的に結びつける研究調査ならびに、インテリア産業という新しい産業の概念を系統的産業アプローチから調査したものである。

「インテリア産業の現状」という標題通り、インテリア産業の現状とその分析および問題点の摘出に終ったが、現在までインテリアの需要・生産・流通・販売を総括するこの種の刊行物が少なかったためか、大変な反響を呼び政府刊行物のベストセラーとなった。

そもそも「インテリア産業振興対策委員会」は、近年、量・質ともに伸長を示し、多様化・トータル化しつつある需要に対応するための、生産・供給をより円滑にし、それらを行う企業の企画力、技術力、販売力を強化し、合理的な流通を通じて企業規模の拡大と産業としての高度化を図るために、デザイナー団体、業界団体、消費者団体などの代表者と学識経験者など約20名の委員によって構成され、発足した。

産業振興がその目的とされているがその根底には消費者保護の思想がその底流として絶えず考慮され、安全、品質保証、アフターサービス、公害防止などが具体的に話題となっている。

49年度は、48年度のインテリア産業における問題点の摘出からより前進し、それらの問題点をベースに、インテリア産業のあるべき姿、ビジョンを提案し、そこにいたる方向性を示すことを目標として、より強力な新しい委員の構成によって委員会が進められている。

48年度と49年度との検討内容の大きな相違点は、48年度が住宅のインテリアにその対象を限定したのに対して、49年度では、公共建築・商業建築などのインテリアまでその範囲を拡大したことであり、インテリアの概念も広義に解釈されていることである。

インテリア産業振興対策委員会情報

理事長
白石勝彦

■インテリア産業のあり方

くわしい報告書の内容については未だ公表は出来ないが、委員会の動きやインテリア産業のあるべき姿についてその概要をのべてみよう。

49年度は委員会を5つのワーキンググループ（WG）に分け、インテリア産業のあり方とその中心となる機能を検討する「産業中核WG」、需要の動向を検討する「需要WG」、生産のあり方を検討する「生産WG」、流通のあり方を検討する「流通WG」、インテリア産業における職能、人材養成を検討する「人材WG」などに分かれている。

各ワーキング・グループは、需要、生産、流通の各面で従来まで、素材、工法、産地、品種などによって分類された業種別、いわゆる「たて割り」の産業構造を、トータルなインテリアをイメージするために「よこに継ぐ」ことを最大の目標として、そのビジョン

作りを進めている。

需要の面では、需要構造の変化、（多様化、トータル化など）の適確な把握を、情報の収集・分析による方向性（トレンド）の予測といった形で明確化し、生産の面ではその予測にしたがってトータルな視野から異業種、異品種間の共同製品企画、共同開発などを行ない、流通の面からはコーディネーターによる商品群の構成とそれらの物的・流通の合理化を推進し、同時にそれらのインテリアの供給を、総合インテリア店化、専門店化の2極とコンサルティングによる消費者へのアドバイスによって専門的知識の供給も含めて行なうことの出来るように検討しつつある。

人材の面からは、「たて割り」の産業構造を「よこに継ぐ」ために、デザインの役割を高く評価し、デザイナーを中心としてインテリア・コーディネーター、インテリア・コンサルタントなどによるトータルなインテリアのイメージをデザインを通して、生産・流通・消費に反映させるべく、それらの人材の養成と職能の確立をいかにすべきかの検討を進めている。

最終的には、従来の弱小な生産・供給の企業規模では以上の機能を満足すべき組織を企業内で持つことは困難であり、したがって、企業の協同化、組織化、グループ化、又は新たな情報処理企業の発生などの形でその機能を果たす組織を育成することが、当面の課題であり、同時にインテリア産業の産業としての高度化への発展のモーメントとなることであろうと考えられている。

わたしはデザイナーの一人として人材ワーキング・グループの主査として、インテリア産業におけるデザイナーの役割について、従来のデザイナーの概念より、より広く、より深い産業に対する理解がこれからデザイナーに要求されるであろうと思う。

同時に、産業のみでなく、需要者に信頼されるデザイナーとして育つためには、われわれの職能の社会的な認識を高める努力をし、その地位を確保すべくお互いの研鑽を重ねる必要があることを痛感する次第である。

アメリカにおける インテリアデザイナー資格試験

1972年にアメリカのインテリア・デザイナーの職能団体であるAID (American Institute of Interior Designers) とNSID (National Society of Interior Designers) によって創設されたNCIDQ (The National Council for Interior Design Qualification) インテリアデザイン資格協議会から出された、インテリアデザイン資格試験のガイドブックがある機会に入手することが出来たので、ここに紹介してみたいと思います(白石抄訳)。

ガイドブック 目次

●NCIDQの沿革

●試験問題の構成

第1部 専門知識

第2部 デザイン課題

●例題

●試験規則

付 録

参考文献

審査員指導書

●NCIDQの沿革

インテリアデザイン資格協議会(NCIDQ)は、AIDとNSIDによって1972年に創設された。

同協議会はIDEC (インテリアデ

ザイン教育協議会), IDSA (米国インダストリアルデザイン協会), ISP (店舗計画家協会), NHFL (全国住宅流行連盟) などの参加と、さらにNCARB (建築登録審議会) の指導と協力を得ました。

協議会は参加団体に対し、この資格試験の実施・発展を委嘱した。試験は専門家団体によって認められたインテリアデザイン資格の取得志望者のための試験機関です。

以下のガイドは、受験準備をしている志望者の助けとなるために計画されたものです。

●試験問題の構成

第1部 (3時間)

試験は、受験者の基本的な知識、技術情報、理論とインテリアデザインの実際を四者択一法によって行われます。

第2部 (8時間)

試験は、受験者の理解と解釈の能力を一つの代表的なインテリアデザインの課題について行なわれ、図面、計画、仕様書その他のデザイン図書を作成し、提出します。

数多くの学校出の受験者にとって、実社会で試験を受けることにとまどいを感じるかもしれないが、すぐこの試験が学生のためのものでなく、実際に活躍しているデザイナーの資格を測定するために計画され出題されていることに気付くでしょう。

試験の2つの部分は指導的な教育者とインテリアデザインの実践家の委員の指導のもとに、専門的な試験機関によって注意深く準備されたものです。

試験の内容とその範囲の比率のウェートは次のようなものです。

第1部 専門知識 (40%)

筆記試験は次の範囲の170問の四者択一法で出来ています。

22% 主要な建築・デザイン・装飾史における時代と様式

27% 近代デザインの影響(人、学校、デザインの要素と原理、照明、色彩の理論と応用)

27% 専門用語、建築記号と規則

24% 実用専門知識、業務の実際と倫理

推薦された参考文献は付表にしるされています。

次のリストは志望者が知らなければ
ならない項目の表です。

〔1〕主な時代と様式

古代 (エジプト, ギリシャ, ローマ)

中世 (ビザンチン, ロマネスク
ノルマン, ゴシック)

ルネッサンス(バロック, ロココ)

スペイン (略)

フランス (〃)

イギリス (〃)

アメリカ (〃)

現在建築 (アルバーアルトー,
ル・コルビジエ, パウハ
ウス, ピエールネルビ,
オスカーニーマイヤー,
ポールルドルフ, リチャ
ードノイトラ, その他)

(省略) 世紀別時代一様式一覧表

〔2〕モダンデザインの影響

●人・学校

モダンデザインに影響をあたえ
た人名, 学校名を年代順に

●デザインの要素

線と輪廓, 方向性, 塊と形, プ
ロポーション, テクスチャと
パターン, 明暗とコントラスト
光と色

●デザインの原理

計画と空間の分割, 線・塊・形
の構成, 機能, 材料の性質, 人
的条件

●照明

自然光と人工光, 波長と周波
数, 残像, ランプの種類, 光源
の種類, 全体調整, 自然光・人
工光の供給方法, 情緒的效果,
安全, 予算, 望ましい照度

●電気配線

スイッチ・アウトレット類の種
類, 回路, 調節・防止装置, 安
全要因, 規則と検査

●色彩の原理と応用

- (a)原理 色彩の源, 色の属性,
色の表示法, 遠近, 面
積, 隣接色などの効果
(b)応用 配分, 計画, 無彩色配
色, 単色配色, 無彩色
と有彩色1色, 類似配
色, 補色配色

〔3〕専門用語と建築記号と規則

1. 読図

電気図, 外観立面図, 平面計画
断面図, 詳細図

2. 材料

●木

木材の種類と性質, 製材法, 材
木の種類と等級, 接合方法

●石

石の種類, 工作法, 接合方法,
化粧張

●セメント

セメントの種類, 現場施工コン
クリート, 型, 混合, 仕上, プ
レストレス, 強化コンクリート
プレキャスト・コンクリート

●石工事

ユニット石材の種類と性質, コ
ーキングモルタル, 石材の接合
方法, 強化石材, 練瓦工事

●金属

金属合金の種類と性質, 製作法
仕上と表面処理, 接合方法

●プラスチック

プラスチックの種類と特性,
製作法

●陶器

建築用陶器, 土器, 石器, 磁器
陶磁器, 仕上と表面処理

●ガラス

建築用ガラスの製作法, 熱・光
・破壊その他の制約, ユニット
ガラス製品, 装飾用品

3. 材料の仕上

●床

木, セメント, テラゾー, 陶板

人造タイル, 大理石その他

●壁

プラスター, 石綿板, 木材, 大
理石, タイル, 石その他

●天井

プラスター, 石綿板, 吸音板そ
の他

●室内造作 木工事

4. 表面材・装飾用材

●床被覆材

機械織敷物, カーペット, 手織
敷物, 天然・人造繊維

●壁被覆材

クラシック壁被覆材, モダン壁
被覆材

●塗料・塗装

塗装材とその応用, 塗料の混合
と利用, 顔料

●金属・金具類

●テキスタイル

5. 家具の構造と工作

●家具の構造

方法, 詳細, 仕上, 製作図面

●椅子張

構造, 方法と詳細

●窓処理

デザインと構造, ドレーパリー
シエード, ブラインドその他

6. ファブリックス

繊維の種類, 糸の種類, 繊維の
構造と製作法, 染色・プリント
繊維製品の種類, 繊維の処理と
仕上, 規則と検査

〔4〕実用専門知識・業務の実際

1. インテリアデザインと計画

企画・計画の実施, 調査, 分析
計画とデザイン実務, デザイン
コンセプトの展開, 依頼者への
提示方法, 実施図面, 仕様書,
購入品に関するサービス, 施
工, 取付に関するサービスなど
の方法とその技術

(a)デザイナーの実務

契約書・依頼書の作成, 予算
総額の決定, 依頼者の債務見
積の決定, 運搬・配送料の接
渉, 追加工事の接渉, 発注前
の借入金のための見積書作
成, 施工業者・供給業者に対
する発注書・仕様書の作成,
その他 すべての工事の監理

(b) 専門的慣習と倫理

2. 対外活動

●デザイナーの社会的役割

(a) 社会・環境問題とのかかわ
り合い

(b) 専門家としての市民参加

(c) 他の専門家とのチームワー
ク

●マスコミ関係

(a) 写真

(b) 地方紙, ラジオ, TV局編
集者への連絡

(c) 全国的専門誌, 消費者向雑
誌への連絡

第2部 デザイン課題 (60%)

試験の際受験者に対しデザイン課題
に関する詳細な内容書が渡されます。

内容書には予算は勿論, 依頼者の要
望や好みなどが含まれています。又解
決に必要な図書類も準備されます。

解答はスケッチによる明快な解決の
能力が期待され, 正確な寸法とプロポ
ーションによる図面が要求され, 問題
の把握とコンセプトの発展の熟練度を
表現することが期待されます。

受験者は問題にとりかかる前に注意
深くスケジュールを立てることをすす
めます。審査員はプレゼンテーション
に時間をかけるよりも, 基本的な問題
解決の方を重要視するからです。

デザイン問題はその評価が複雑なの
で, 審査員に対する指導書を付録とし
てつけておきます。

デザイン問題作成に必要な用具

1. シャープペンシル(H又はHB)
2. トレーシングペーパー
(18"×24")
3. 三角定規, T定規
4. マスキング・テープ
5. 着色材 (色鉛筆, ペンなど)
6. 鉛筆削り
7. 消しゴム
8. 建築用スケール
9. 家具型板又は記号型板
10. 製図用具

以下は提出が要求されなくても作成
しなければならない図面類のリスト

1. 家具配置図 2. 電気計画図お
よび照明器具計画 3. 立面図
4. 断面図 (垂直および水平)
5. 家具詳細図 6. 透視図又はア
イソメトリック図 7. その他説明
を助けるスケッチや図解など。

例 題 (代表的なもののみ)

1. つぎのいずれがアメリカンコロ
ニアル時代を連想するか?
I シェーカー・チェア
II ハドレイ・チェスト
2. ポンペイの建築的特徴は次のい
づれの時代に暗示を与えたか?
I イタリアン・ロココ
II フレンチ・バロック
3. バウハウスの最初の指導者は?
A. ジョセフ・アルバース
B. ル・コルビジェ
C. ワルター・グロピウス
D. ミース・ファンデルローエ
4. つぎのいずれが成型合板, プラ
スチックスの仕事で有名か?
I フィン・ニュール
II チャーズ・イームズ
5. 「明度」とは?

- A. 補色の色彩計画
- B. 第2, 第3の色彩
- C. 色の明るさと暗さ
- D. 色の輝やきと曇りの度合

6. どれが普通の住宅の階段の踏み
板の寸法か?

- A. 3"~5"巾
- B. 5"~7"巾
- C. 9½"~12"巾
- D. 10½"~15"巾

7. つぎのいずれがナンロンカーペ
ットの特性か?

- I 防燃性である
- II 静電気をおこす

8. つぎのいずれが繊維製品に量産
でプリントする方法か?

- A. 絞り染
- B. シルクスクリーン
- C. ブロックプリント
- C. ロールプリント
- D. ロールプリント

9. つぎのいずれがインテリアの施
工を発注するのによい方法か?

- A. ショールームのメモを使う
- B. 電話で発注する
- C. 各品目毎に発注書を作る
- D. ショールームの係員に口頭で
指示をする

このあとに参考文献のリストが付け
られていますが省略します。

最後に審査員の公平で, 客観的な評
価のための指導書が付録としてつけら
れています。紙面の都合で全部を掲載
出来ないのが残念ですが, 極めて注意
深く, (特にデザイン問題で) 評価基準
が設定されており, アメリカらしい公
正さと, 合理性が感じられるものです。

また同時にこの資格の社会的な信頼
度を高めるために必要なことであるよ
うに感じられました。

関西事業支部
50年懇親会・研究会便り
本田 安治

去る1月23日、関西事業支部では新春の懇親会を兼ね、ホテル阪神2F、クラブ・スターライト特別室を会場に当てて50年、第一回目の研究会が行われた。

心新たに迎えた昭和50年の当初に当り、其日の結果は今後の支部状況を推えはかるバロメーターとなり得るものと考えられたが、当日は遙々四国からの出席をはじめ、3年振り、5年振りに顔を合わせた会員の人等、或は研究会のテーマにひかれて、会員と連立ち出席された協会外の人々等、40名近い集りがあり、旧交をあらため、又身の現況を交換し合うなど、和やかな人の環が幾つも出来て、近頃ない盛況をみたのは真に喜ばしい事であった。

一方、研究会は、現在イタリアのベルリーニ、カッシーナ両社とデザイン契約を結び、国内、国外を股にかけて御活躍中の会員、喜多俊之氏と、現在氏と行動を共にしながら滞日中のベネチア大学建築学部学生、メルルニ・アントニオ両氏を囲んで「イタリアデザインの現況」と題するスライドを交えた豊富な話題を中心に、各会員からの質疑応答、懇談の形で行われた。各出席者の立場が成さしめる質問の巾の拡大は避けられず、出された問題点は多岐に及んで聊か時間不足の感じがしたのは残念であったがその内容には、我々の日常に対して示唆に富むものが多く、その内二三を項目的に整理すると次の様な事になろうか？

●イタリア社会に於ける階級制度の歴史的及び今日的な背景を良く理解しなければイタリアデザインの観察は表面的なものとなるだろう。

●デザインゆきづまり打開の発想の根底に、“誰れの為に（どの階級の為に）”デザインするべきかの問題意識が流れて居る点を見逃してはならない。

●日本で、我々が思っている以上に或はもっと意外な面で、デザインの発想や素材を日本人の生活の日常性の中から吸収し、得ようと考え努力している事がイタリアのデザイナー達の動きの中に見られる。

●アントニオ氏の場合、5年制の大学建築学部を卒業し、国家試験に合格すれば、建築・造形・デザインの分野に於いて社会から信任のフリーパスを得たのと同じ事となるので、フリーにどの分野のデザインをも手がける事が出来る。此点日本の建築士の資格の概念や、デザイン分野の概念では捕え難いものがある。

以上の他、量産の問題、企業とクライアントの問題、具体的施工の問題など話題は尽きなかったが、より時間をかけて是非もう一度じっくり話し合いたいと云うのが出席者の声であった。

最後にアントニオ氏は、童顔の抜けやらぬ好青年であったが、物怖じも衝きもなく我々の中に溶け込み、談笑に加わった様は見事であった事を付加えて置こう。

旧帝国ホテル
林 寅正

名古屋の北約30キロの所に犬山市があり、此の街の東に博物館「明治村」がある。かつてJ I Dでも見学会が一度行われたから御存知の方も多と思う。此の明治村は名前の如く明治時代に建築された建物を移築して周辺全体を博物館としているものであるが、そ

の中には京都市にあった聖ヨハネ教会堂、聖ザビエル天主堂、西郷従道邸等40余の建築物が広い丘の上に地形を利用して建てられ休日には多くの人々が此処にやってくる。

そして私も又此の明治村を訪ねたのだが、実は明石氏著の「旧帝国ホテルの実証的研究」を読み、改めてF. L. ライト氏の素晴らしさに感激し、それにつけても此の旧ホテルの一部を移築すると聞いた明治村でのその後の状況はどうなっているのだろうか。写真で見ると大谷石の彫刻とテラコッタの交りあい一体どんなものだろうか等その詳細を目のあたりに今一度みたいものだと思ったからである。

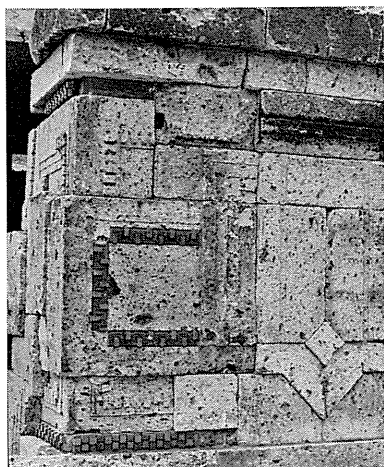
その工事は明治村の一番奥まった場所で行われていた。勿論全部の移築ではなく、正面玄関とロビー附近のみとしかであるがコンクリートの躯体工事も大分進んで概略の規模はわかりかけており、創建当時型枠代りに使用された外装の大谷石が試験的にごく一部組み込まれているのが見えた。所が此のスケルトンを遠望し且つ近づいて見るにつけてどうも場違いな感じがしてならない。工事中と云う事で割引しても山を脊にして立つそのプロポーション等どうにも美しくない。両翼を切られた中央のエントランス・ロビー部分のみが前面の池もなく、あらわにされたその悲しみであろうか。設計者が創った東京の街の中とは全く違う場所に両手両足をもぎとられておかれた建築、ライト氏の建築はその立地との交りをなくしては存在し得ないのではないだろうか。ましてそれが部分となった時そこに残るのは悲しい形骸をさらすのみとなるのではないだろうか。

明治村は博物館である。此処にある建物は博物館の陳列物である。それは象や虎等の動物の剥製が自然博物館の中で今にも歩き出すかのように眼を光らせて置かれている事に似ている。し

かしそこには生きた息吹はない。人はこんな動物がいたのかと眺めて通りすぎて行くだけである。明治村の建物もかつてはすべて生きていた。今は建築の剥製である。F. L. ライト氏の素晴らしい作品が例え一部分の剥製といった状態ではあっても、残ると云う事に何らかの意味があるのだろう。それはライト氏が設計に際して書いた「新帝国ホテルと建築家の使命」（遠藤新氏訳明石氏著より）の一文に於て日本のその当時の、又現在只今の建築界にもそのまま通ずる痛烈な警告と方向を示した事えの一証左になると思われるが、しかしライト氏の云う「日本の建築界に寄与する俸物」であることを記念する為にはあまりに悲しい形ではないだろうか。

私はF. L. ライトの建築はロスアンゼルス周辺の小住宅のわずかとタリアセンのスタジオそして此の旧帝国ホテルの東京での在りし姿を見ているにすぎないが、タリアセンを訪れて、たまたまライト氏と話す機会を得た時「なぜ日本人は帝国ホテルをこわすのか」とはげしい口調で問われ、返答の出来なかった事をいまだに忘れる事ができない。

明治村に出来るだろう剥製としてのF. L. ライト氏の作品旧帝国ホテルに涙を禁じ得ないのは私だけだろうか？



これからの住宅と家具

講演・池辺東大教授

—大川家具工業会主催・県大川木工指導所後援—

日本インテリアデザイナー協会、九州事業部長坂本康四氏の企画により東大教授 工博 池部 陽 氏が、九州芸術工科大学に来福される機会に、同大学教授 由良滋、宮内 哲氏の 協力を得て去る2月15日午後3時から大川家業会館において「これからの住宅と家具」と題する講演会を開催したところ、受講者70名の多数出席をえ盛大であった。

同博士は東大工学部建築学科を卒業後、同大学講師となり、同大学生産技術研究所助教授を経て現在同研究所教授。その間に数多くの実験住宅の設計を通してモジュールの研究を重ね、そこから得たモデュラー、コーディネーションおよびシステム理論に基づいて、主として住宅性能とデザイン・システムの標準化に尽力された。

同博士の講演内容は、

日本の建築や室内は欧米とは異なった内容と形式をもって発展してきた。

最近、多様化する住宅と家具との関係が非常に重要となり多くの問題点をかかえているのが日本の現状である。西欧では日本と異なり石材構造を主体とし、室内構成に大きく異なり、部屋単位のリビングルーム、ダイニングルーム、ベッドルームなどの確立された住生活を営んでいる。

ヨーロッパのプレハブ住宅が本格化したのは1950年からで、全住宅の30%に達している。日本ではそれより10年遅れたが、普及率は住宅の10%である。しかしわが国では狭い土地に1億人以上が住んでいるので数から言えば多量である。それにわが国は規格が全国统一であり、北は北海道から南は九州、沖縄まで風土、気候の異なるところに同じ形の住宅を建てる。アメリ

カやソビエトでは全てが州単位であるため、土地にマッチした住宅を建てる。わが国の住宅は全てが矛盾しており購入するに当たっても、アメリカ、欧州人は生活を基本にするが、日本人は金次第である。だから日本の住宅は質が悪いうえに世界一高値である。プレハブは日本の都市を破壊する要素があるし、決して同じ住宅を作る必要はない。日本は今後、住宅の質を守る法律を作り質の向上を計るべきである。

最近、アルミサッシが日本では流行しているが、これはわが国が殆んどで、アメリカではモビルホームだけに使用されて、欧州、アメリカで木製のものを重視している。サッシはアメリカ本国のために開発したのではなく日本への輸出用に開発したのが本音であろう。

家具については、化粧紙を張らない家具、使いこんで良くなる家具、手入れの出来る家具、日本の昔の家具はそうであったように……。

以上、講演の一部を紹介しましたがそのほか実験住宅についての貴重な話を拝聴した。

講演のあと、大川市内の展望がよい中之島のアイランドパレスにて、先生を囲んで懇談会が開催され、なごやかなうちに終了した。

（正会員 箴島良介記）

関係ない“はなし”
長岡貞夫

「えー」、最近、どおゆう風の吹きまわしか、むしゅうに落語が聞きたくなりーそれも志ん生の咄が一志ん生大全集なるレコードを手に入れ、深夜、わが「亭」の古座敷でコタツに背を丸めて、少々くたびれた電蓄からもれる囃に耳をかたむけけている。

元来、わたしは不真面目な落語ファンで、寄席にかようでなし、名人会などに出かけるわけでないが、それでもラジオ時代から好みの咄家のものは逃さなかった。文楽、円生、馬金、柳橋、三木助、小さん、など古い人達である。

なかでも「志ん生」湯上りに一パイ引掛けたようなあの上気した顔、布袋さまのような額とに境のない光った頭、たるんだ幕のように目を覆かくす臉、などいかにも芸豪にふさわしい風貌からでる話芸は江戸前でキップがよい。一見乱暴で一直線にいいはなすが、かげにこまやかな神経がくばられた話しぶり。「ふんどし」まで質に入れる落語を「じ」で行く豊かな人生経験に裏打ちされ、体臭のにじみでた裸の魅力が何んともいえない。

八十余才で、あの世ゆきした志ん生の講釈には、人情もの、廓ばなし、など幾多のおはこがあり、それぞれに聞かせるが、何んといっても「火焰太鼓」が絶品である。

咄のすじは、道具屋の甚兵衛さんがきたねえ太鼓を一分で仕入れて来たので、かかあー天下のおかみさんからサンザン小言を食う。店先で手伝いの定公がほこりをはらいながらドンドン叩いていると、通りがかったお上の耳に入り、待から「どういう太鼓か屋敷に持参をいたせ」と申しつけがある。おっかなびっくり甚兵衛さん、太鼓を持参すると、「これは火焰太鼓といって

世にふたつというような名器である。買い取らせるから値段を申せ「といわれ、初めはモジモジしていたが、強気に変心、法外な値踏をする、が結局金300両で売れる。大金を懐にしっかと入れ、気もそぞろで帰りを急ぐ甚兵衛さんが、女性上位のおかみさんに当てつけにいう一人ごと「女の〇〇〇と、男の馬鹿でつかう……」など、尻にしかけている亭主どもの代弁で、溜飲が下がる。さて家にとって帰って信じようとしないうかみさんの前に50両ずつ出す。おろおろしながら、かみさんのお世辞がだんだんよくなり、「お前さんは商売がうまいね」と、手のひらが返る。そして「音のするものに限る。こんどは半鐘を叩こう」「半鐘はいけねえ、オジャンになるから」と落ちになる。

咄は簡単だが、会話の微妙な描写、甚兵衛さんとかみさんの対比、実にあざやかに志ん生は、はなす。

もう一席、わたしの好みに「替り目」がある。志ん生自身を生地で演じているといわれる。

ストーリーは、呑平で亭主関白な男が、ペロペロになってもどってくる。もう少し飲ませると、かみさんからむ。毎度の酔態に慣れたかみさんも、ないサカナを出せと、せつく亭主に「何にもないよ。もう少し早やければアブラ虫がいたけど……」などにつけんどんな返答をする。これが又、気に入らない亭主は「女は口のきき方一つできりょおをよく見せるてえいうが、おめーなんぞは……」と、さんざん悪態をついた挙句「まだ、おでん屋が起きているはずだから、買って来いー」と叱りとばして買にやらす。口では乱暴なことをいい、外面は威張っているが、実は「うちのかみさんはいい女房だ」「きりょうもいいし、おれにはもったいない」と、一人ごとをいって女房をほめる。ひよっと、うしろ

を向くと、まだかみさんがいる。「なんだ、まだ行かねえのか」と、一段と声が下がる。内をみられた亭主の「てれ」が余韻を残して「はなし」はおわる。

落語の面白さは、一人ごとにある。自分のいつわらない気持をブツブツ愚痴る、時には空威張りをする。内一本心、裏一真実をみせてしまうところにスカットした笑いの一面がある。

「火焰太鼓」で、勝気なかみさんと、人のよい亭主。「替り目」では、亭主関白な男と、いい女房、と対称的な夫婦ものだが、結局はもちつもたれつの間柄、どっちにも共感をおぼえる。

「なあーて」勝手なことを申しながら集り、散る、「親睦会」。

「おあとが、よろしいようで……」

新居猛氏
中小企業庁長官賞受賞

昨年12月、新居氏は中小企業庁主催で開催された“第15回全日本中小企業輸出見本市展”に、新たにデザインされた椅子（“ニー チェアー N”）を出品し好評をはくしましたが、去る3月10日、目出度く“中小企業庁長官賞”を受賞されました。

これは、同氏の地方に在住されてのたゆまざるデザイン活動が報いられたものと考えてよろしいと思います。

この椅子は、ビス6本で組み立てた椅子枠の上面にロープを張り、その上に座と背のクッションを置いて使用するというものです。（文責 事務局長）



賛助会員紹介

朝日木工 (株) 豊川工場

愛知県豊川市豊川町幾通り15

(05338) 6—4171

(株) コスガ

東京都中央区東日本橋2—15—4

(03) 862—6711

(株) 天童木工東京支店

東京都港区芝浜松町1—19—2

(03) 432—0401

飛驒産業 (株)

岐阜県高山市名田町1—82

(0577) 2—1001

富士ファニチャー関西販売 (株)

大阪市南区塩町通り1—52 森ビル内

(06) 261—4691

ネコス工業 (株)

横浜市中区戸塚区飯島町久保890—1

(045) 851—5761

古川工業 (株)

大阪市大淀区中津浜通4—5

(06) 371—0849

(株) ホウトク

名古屋市中区錦2—15—22 協銀ビル

(052) 201—4101

フランスベッド (株)

東京都昭島市中神町1148

(0425) 43—3111

(株) オリエンタル中村百貨店

名古屋市中区栄3—5—1

(052) 251—2111

(株) 大丸装工部

大阪市南区鰻谷中ノ町38

(06) 252—0641

国際インテリア (株)

東京都豊島区南池袋1—18—21

(03) 983—9151

(株) モダン・ファニチャー・セールス

東京都千代田区大手町2—2—1 新大手町ビル

(03) 211—8351

日本総業 (株) (エアボン)

東京都港区麻布飯倉片町10

(03) 582—3341

クラレインテリア (株)

東京都港区六本木5—2—1

(03) 403—9721(代)

(株) ホクサン

東京都江東区木場3—15—4

(03) 641—5111

(株) 木利屋

東京都港区新橋3—6—7

(03) 503—1920

三好木工 (株)

東京都文京区湯島4—9—2

(03) 813—5481

愛知 (株)

春日井市如意申町650

(0568) 31—6111

(株) コトブキ

東京都千代田区有楽町1—14

(03) 591—1311

(株) セミカインテリア

東京都新宿区西大久保1—392

(03) 208—0131

住江織物 (株) 東京支店

東京都港区西新橋3—23—1

(03) 433—4171

トーソー (株)

東京都中央区新川1—4—9

(03) 552—1211

長谷虎紡績 (株)

大阪市東区横堀2—10

(06) 203—5921

藤井毛織 (株) 東京事務所

東京都中央区日本橋堀留町2—3

(03) 663—6631

内一商事 (株) 東京営業所

東京都荒川区東日暮里6—36—12

(03) 802—4471

(株) カワキチ

東京都新宿区西大久保2—211

新宿専門会館 1F～6F

(03) 209—7001

(株) サンゲツ

名古屋市中区小舟町2丁目14

(052) 565—1133

アイカ工業 (株)

愛知県西春日井郡新川町西堀江2288

(0560) 40—5311

東洋ゴム工業 (株)

大阪市西区江戸堀上通2—5

(06) 441—3580・8801

富国 (株)

東京都中央区日本橋小伝馬町2—2

(03) 662—1901

(株) 高島屋

大阪市南区難波新地6—14

(06) 631—1101

(株) 高島屋東京支店設計部

東京都中央区日本橋2—4—1 北別館

(03) 211—4111 内2157

(株) ニック (NIC)

福岡市中央区天神1—11—17 福岡ビル

(092) 721—8151

(株) ハヤミズ家具センター

東京都台東区下谷2—7—2

(03) 876—1111

揖斐川電気工業 (株) 建材事業部

岐阜県大垣市神田町2—1

(0584) 81—3111 内線368

(株) トップトーン

東京都葛飾区東四つ木3—44—15

(03) 692—9097(代)

(株) 佐野紙芸インテリア事業部

京都府亀岡市曾我部町犬飼馬の上1

(07712) 3—0661～4

東濃陶器 (株)

岐阜県土岐市駄知町1435

(05725) 9—3131

(株) アイ・エム・エス

東京都港区南青山1—11—38

(03) 402—1855

(株) 日建設計

大阪市東区横堀2—38

(06) 203—2361

(株) カファドハウス

東京都港区西麻布2—13—12 早野ビル

(03) 407—2428

(株) 竹中工務店東京支店

東京都千代田区神田錦町1—9

(03) 294—2111

(株) ファースト東京支社

東京都港区赤坂4—1—32 赤坂ビル6F

(03) 585—2046

(株) 商團

東京都渋谷区東1—26—26 富士ビル8F

(03) 407—8171

(株) 小川商店

東京都渋谷区松涛2—18—2

(03) 460—5771～7

(株) 川島織物東京営業所

東京都千代田区永田町2—14—2

山王グランドビル5F

(03) 580—4511

(株) 東光堂書店

東京都中央区日本橋通1—7—6 中内ビル

(03) 272—1966

松下電工 (株)

大阪府門真市大字門真1048

(06) 908—1131

ヤマギワ電気 (株)

東京都千代田区外神田4—1—1

(03) 253—2111(大代)

共同通信工業 (株)

東京都千代田区内神田2—16—13
(03) 254—1261

(株) 松坂屋

名古屋市中区栄三丁目16—1
(052) 251—1111 内3781

(株) 新宮商行東京支店

東京都中央区日本橋1—3—13
(03) 273—7841

(株) フジエテキスタイル

東京都渋谷区千駄ヶ谷4—7—12
(03) 403—3371

(株) アルフレックス ジャパン

東京都港区北青山3—5—6
(03) 403—5351

中央設備エンジニアリング (株)

名古屋市中村区笹島町1丁目223
(052) 582—8201

日本ビクター (株) デザイン部

横浜市神奈川区守屋町3—12
(045) 441—1291

内外木材工業 (株) 東京支店

埼玉県入間郡大井町亀久保1150
(0492) 61—3611

同社東京支店分室

東京都千代田区内神田1—14—8
長谷川第5ビル
(03) 292—3841～5

(株) 三平興業装飾部

東京都千代田区岩本町1丁目5—13
(03) 862—6161

共同印刷 (株)

東京都文京区小石川4—14—12
(03) 813—1111 (内線439)

(株) ハック

東京都港区西麻布3—2—6
六本木フジビルディング7F
(03) 470—3257～8

鹿島建設 (株) 建築設計本部

東京都新宿区西新宿2—1—1
新宿三井ビル24F
(03) 344—2111

山田照明 (株)

東京都千代田区外神田3—16—12
(03) 253—5151

(株) 森 伝

東京都港区西新橋3—23—6
(03) 433—4421

(有) ビジュアルブレーン

千葉県千城台西1—13—11
(0472) 37—6608

(株) 武藤精密

東京都板橋区熊野町43—14
(03) 956—5176

(株) 海 市

東京都中央区宝町1—3
(03) 567—3511

浅野産業 (株)

東京都千代田区鍛冶町1—10—10
(03) 256—8947・251—2587

MAAM INTERIOR

マーム インテリア
東京都港区西新橋2—7—4 森ビル20
(03) 591—8291・8292

寿屋木工 (株)

名古屋市東区山田東町1—35
(052) 721—0211

昭和エフキャスト (株)

福岡市東区箱崎5—11—93
(092) 651—2931

ロイヤル (株)

名古屋市北区上飯田南町5—20
(052) 981—9521

(株) 西武百貨店家具装飾部

東京都豊島区南池袋1—28
(03) 983—0161 (内線3696)

西和インテリア (株)

埼玉県入間市狭山ヶ原松原108—15
(0429) 34—1101

(株) 北新合板製造所

東京都新宿区新宿2—8—1
新宿セブンビル4F
(03) 352—6201

ユニオン装備工業 (株)

埼玉県大宮市桜木町1—154
(0486) 41—9861

日本板硝子 (株) 東京支社

東京都港区新橋1—8—3 住友銀行新橋ビル
(03) 573—0121 (内線240)

帝人リビングシステム (株)

東京都千代田区霞が関1—4—4
ニューダイヤモンドビル
(03) 506—4874

(株) カスタムインテリアデザイン

東京都品川区西五反田7—22—17
東京卸売りセンタービル
(03) 494—3307

ワコールインテリアファブリック事業部

東京都港区赤坂1—3赤坂アビタシオンビル
(03) 586—2131

■新緑の5月、街には新しい背広を着こんだ新入社員や新しいカバンを手にした新入生など、明るい日ざしに照りはえてここちよい季節。庭に飛んでくる野鳥も、近ごろは心なしかふえてきたようだ。見なれない鳥を見つけると急いで図鑑でしらべ名前をさがすのだが、最近はやや手まどり勝ち。

また、野鳥も野生を失ないつつあるとか、エサをあげるのも考えなければなどと思える今日この頃です。

編 集 後 記

■ここに、新年度第1号(70号)を送ります。毎年、もととコンスタントに編集・発行しようと委員一同奮起一番が、どうもペースが狂いがち。

今年度の協会も、社会状況の変動とともに、静かに変身しながらも力強く行動してゆく必要があるのではないかと。

曰く、公取委によるアメリカにみる設計報酬についての問題。アメリカでは、今や実力による自由競争の時代の到来ともいわれている現状。かつてデザイナーの虚像が語られて久しいこの方、これら古くて新しい問題も協会はさけて通れないのではないだろうか。

会員諸氏の衆智を紙面に披れきしてゆきたいと念じています。(尾上)

機関誌・J I D No. 70 定価 300 円
昭和50年4月発行 印刷 広洋印刷(株)
発行所 社団法人 日本インテリアデザイナー協会
(〒150)東京都渋谷区神宮前2—3—16建築家会館3F
振替・東京・76389番 電話(03) 403—3649

発行人・白石勝彦 編集 社団法人 日本インテリアデザイナー協会 会報委員会
担当理事 川上信二
委員長(関東) 尾上孝一●三宅征郎・光藤俊夫・山岸紀史・長谷川由紀子・諸富顕治
(関西) 本田安治
(中部) 林寅正●八代美代子・宇賀敏夫・安藤清
(九州) 中川千年●香月寿一・堤 久夫

The Japan Interior Designers' Association

JAA-Bldg., 3-16, 2-chome, Jingumae Shibuya-ku, Tokyo, Japan.